錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第４５４号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2024

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：春季球技大会決勝戦の様子をお届け！
よりよい秋季大会へ向けて
二面：MVPを獲得した6人の喜びの声
チームメイトへの感謝を語る

熱気に包まれた最終決戦

熱戦の春季球技大会、閉幕

５月30日(木)、春季球技大会が最終日を迎えた。今号では、ひときわ盛り上がりを見せた各種目決勝戦の様子、大会運営に大きく携わった球技大会実行委員長、審判の声をお届けする。（編集部共同取材）

相手に隙を与えない陣形で追い込んでいく

サッカー

２Ｇ対２Ｈのサッカー決勝では、互角の戦いが繰り広げられた。前半戦では、ときおり放たれるシュートをそれぞれのキーパーがキャッチするたびに歓声が上がった。後半戦で２Ｇがシュートを決めると、２Ｈも負けじと続けてシュートを決めた。スコア１対１で試合は延長戦に持ち込まれた。

延長戦の前半戦でも互角の戦いが続いたが、後半戦で２Ｇから放たれたシュートはゴールネットを揺らし、勝ち越し。２Ｈは反撃できぬまま試合が終了し、２Ｇが優勝を勝ち取った。

男子バレー

３Ｆ対１Ｊのバレーボール決勝は、１Ｊのサーブから始まった。第１セットでは６対６まで接戦が続いたが、均衡を破ったのは３段攻撃を決めきった３Ｆ。その後は必死に追いかける１Ｊ相手に少しずつ点差を広げ、10対15で３Ｆが第１セットを獲得した。

流れをつかむ鋭い一打

１Ｊの先制点で始まった第２セットは、セット中盤まで３Ｆが９対５と順調に点差を広げたが、１Ｊも負けるまいと連続得点で９対７まで差を縮める。しかし、３Ｆは１Ｊの強烈なアタックを見事に止めて連続得点をとめ、13対９と再び点差を広げる。大きな応援と期待がかかった３Ｆ最後のサーバーが力強いサーブを２本決め切り、15対９で３Ｆが優勝を掴み取った。

男子バスケ

１Ｇ対１Ｌの１年生対決となった決勝戦。第１ピリオド、１Ｇが先制するも、１Ｌも追ってゴールを決める。双方息の合ったパスを見せ、第１ピリオドは11-８で１Ｇがリードした。

第２ピリオドではボールを奪い合い、両チーム得点を狙うも惜しいシュートが続く。１Ｌが素早いドリブルとシュートで１Ｇに追いつき、13-13で第３ピリオドを迎えた。

相手をかわしてゴールを目指す(写真部提供)

両クラス応援のコールが勢いを増す中、１Ｇがゴールを決める。１Ｌもリバウンドに食らいついて点を返すが一歩及ばず、19-15で１Ｇが優勝を飾った。

ドッジボール

ドッジボールの決勝は３Ｅ対３Ａの対決となり、両者に熱い声援が送られながら試合が始まった。第１セットからお互いに素早い攻撃を繰り出し、一進一退の攻防が続く。内野の人数はセット終盤まで同数であったが、最後は３Ｅが粘りを見せ、第１セットは３Ｅが先取した。

続く第２セットも、両者２人連続で当て合うなど激戦が繰り広げられる。しかしここで、３Ａの攻撃を避け切った３Ｅの怒涛の攻撃が始まる。３Ａのコート残存人数は徐々に減っていき、ついに３Ｅが最後の一人を当てて優勝を掴み取った。

素早い攻撃で相手を当てていく

女子バレー

３Ｉ対２Ａの一戦は、最後まで目の離せない戦いとなった。第１セットは、流れを掴んだ３Ｉが先取する。第２セットに入っても３Ｉの勢いは衰えることなくリードを奪うが、２Ａが意地をみせ同点に追いつくと、ここから怒涛の４連続ポイントを挙げ、このセットを制した。

運命の第３セットは一進一退の攻防が続く中、２Ａがサーブで連取し一気にマッチポイントに持ち込む。２Ａ圧倒的有利の中、３Ｉが追い上げてスコアは９対９の同点となった。次の１点を取ったほうが優勝という中、最後は３Ｉがライン際の絶妙な一打で、得点。３Ｉが見事優勝に輝いた。

相手コートにサーブを叩き込む

女子バスケ

３Ｅ対３Ｉの決勝はなかなか点が入らず、拮抗したスタートとなった。しかし、第１ピリオド終了２分前、３Ｉによるフリースローで０対１になり、そのままピリオドを終える。続く第２ピリオドの先制点は３Ｅによるレイアップシュートで逆転から始まった。そのすぐ後に３Ｉもシュートを決め、優勢を守ろうとしたが、３Ｅの選手による怒涛のスリーポイントシュートで点差を一気につけられてしまい、15対３で第二ピリオドが終了した。最終ピリオドでも３Ｅは攻撃の手を緩めることなく、結果は17対３で３Ｅが優勝した。

ゴール目掛けてシュート！

「大きな歓声が届きました」

球大委員長 秋は後輩にも期待

球技大会実行委員長の向山統さん（３Ｂ）に、今回の球技大会を終えての感想を伺った。向山さんによると今回の球技大会は、サッカーでは全クラスの出場、バスケでは出場チームの少なさからのリーグ戦の開催など、いつもとは違う球技大会である部分が多かったという。「普段とは違うところを、全力で楽しめたと思います」と話してくれた。

試合のスケジュールは３日目まで詰まっていたそうだが、どの競技でもたくさんの観客が集まったという。「本部まで大きな歓声が届いていたので、みんな楽しめていたようでよかったです」と笑顔を見せた。

「普段との違いを楽しめました」

一方、勝利報告の間違いといった小さなミスで総合優勝などの結果が変わってしまうという緊張感もあったそうで、ミスが起こりそうな部分では必ず２・３年生が１年生につくなど工夫をしていたと話してくれた。

秋の球技大会からは、２年生が主体となって活動することになる。この３日間の間で１年生のサポートなど、２年生が自主的に動いてくれた場面が多かったといい、「１年生も初日は大変だったようですが、わからないことはすぐ聞いたりして先輩から多くのことを吸収していたので、安心して任せられます」と１・２年生への期待を語った。

最後に、10月にある秋季大会へ向けて「怪我などをすることなく、全員が揃って楽しんでくれれば嬉しいです」と語ったうえで、錦城生には「次期実行委員長の一発芸も楽しみにしていてください！」とメッセージを送った。（瑞）

秋大会もマナー守った応援を

審判をするサッカー部の部員
（写真部提供）

観客の応援についてサッカーの審判を担当した路川尚志さん(2A)と風間健太郎さん(2A)に話を伺った。路川さんは昨年見受けられた野次のようなものはなく、公正な応援ができていたと話す。一方で風間さんは、出入り口付近でたまる人やラインに近い位置での観戦が多く見られたことを課題として挙げた。秋季大会に向け、２人は「審判に配慮した応援をよろしくお願いします」と生徒に呼びかけた。

球技大会 フォトコンテスト ～写真部作品集～

今期の球技大会では、写真部とコラボして大会中の様子を記録しました。今号では編集部が選んだ写真部作品を掲載します。協力いただいた写真部の皆さん、ありがとうございました。

むらさき草

錦城生の夏は、球大で始まる。クラＴで過ごす３日間はまさに高校生真っただ中▼ところであなたはＡ「ガチ勢」、Ｂ「ゆるく楽しむ勢」、Ｃ「なんとか乗り切る勢」のどれ？▼私のような運動弱者のＣ勢にとって、球大は一種の苦行だ。昨年のバレーでは自分がボールを落としてしまい、申し訳なさがエグいほど付きまとった▼今年はドッジボールに参加したが、ドッジでは基本、外野と目が合ったら終了だ。恐らく「ヤバいどうしよう！？」的な弱者特有の空気がダダ漏れなのだろう。だから私には「あ、コイツになら勝てそう♡」という視線が向けられる▼ふと思った。スポーツ弱者が球大で生き残るには、攻めも守りも全部やろうとするより、一つの“作戦”を完遂することの方が大切なのではないか▼で、私が立てた戦法は「投げずに逃げる、拾わず逃げる」。逃げにだけ専念すると、試合で一度も当てられずに残れた▼ボールが飛んできた時に「あれもしなきゃ、これもしなきゃ」と考えるからこそ、頭がパンクして動きに遅れが生じる。これはスポーツ以外も同様で、完璧主義の人がこのような「全てやる」思考に陥りやすいそうだ。しかし、全部に挑戦することは本当に「ベストの結果」につながるのか▼私は「ボールを追う」ことを仲間に任せ、代わりに「逃げること」に命をかけた。その選択をしたから最後まで内野に残れたし、チームの勝利に（ほんの少しだけだけだが）貢献できたのだ。勝因は、行動パターンが一つに決まったことだ▼球大は終わったけれど、錦城生の夏はまだ始まったばかり。日常生活の中でも「あれもこれも」となりがちだが、時には「どちらか一方を選んで、それにガチる」という選択肢もありなのだろう。一方だけを選ぶのは決して「弱さ」なんかではなく、一つの重要な“作戦”であるはずだ。（普）

「みんなでつかみ取った優勝です」
球大 MVP 特集

１日の順延をはさみながらも白熱した戦いで幕を下ろした春季球技大会。その中でも各種目で一際活躍し、MVP に選ばれた６人の選手たちを取材した。今号では MVP の選手たちが語ってくれた活躍や優勝の秘訣についてお届けする。　(編集部共同取材)

サッカー　須佐聖さん（２Ｇ）

初出場・初優勝の喜びを語る

サッカーでＭＶＰに輝いたのは、決勝の延長戦で見事ゴールを決めた須佐聖さん（２Ｇ）。昨年の球技大会では怪我や学級閉鎖などにより、春・秋ともに競技に参加できなかったそうで「今回出場して、優勝することができてとても嬉しいです」と喜びを語った。須佐さんは中学の頃にクラブチームでサッカーをやっていたそうで、その経験が現在所属しているハンドボール部での練習でも生かされていると教えてくれた。２Ｈとの決勝では、前半は守備で後半は攻撃にそれぞれ徹し、強い相手は経験者が一対一でマークするといった戦略を立てて臨んだという。延長戦での相手のフリーキックなどヒヤッとした場面もあったが、それでも「最後まで諦めなかった」という須佐さん。そのことが勝てた理由でもあったと振り返った。また、皆で戦って優勝を取れたという実感もあるそうで、チームメイトには「ありがとうと伝えたいです」と話す。秋季大会へ向けて「もう一回優勝を取れるように頑張ります」と意気込んだ。　(瑞)

ドッジボール　大島遥さん（３Ｅ）

「ここまできたら６冠します！」

ドッジボールでＭＶＰを受賞したのは大島遥さん（３Ｅ）。大島さんがＭＶＰ獲得となるのは今回が５回目で、周囲の人からも応援や祝福の声をもらったという。大島さんは優勝について「ずっとギリギリの戦いだったので、すごい安心しました」と率直な感想を語る。実は、決勝で３年と対戦したのは今大会が初めてだったという。ハンド部やソフト部の生徒がいる３Ａ、３Ｂとの試合が特に印象的だったようで、大島さんは「確信して『勝てる』という感じではなかったから、試合中ずっと怖かったです」と話す。決勝で戦ったＡ組との試合では、強い相手に囲まれないように気を付けたそうだ。クラスのみんなに向けては「大好き！」、錦城生に向けては「怖くないから、怖がらないで…」とメッセージを送る大島さん。ＭＶＰ５冠と言うことで「無敵」「余裕」といったイメージを持たれることが多い大島さんだが「全然そんなことないです」と笑いながらで話してくれた。秋季大会に向けて大島さんは「ここまできたら６冠します！Ａ組もＢ組も倒す！」と意気込みを語った。　(普)

男子バスケ　田村熙太朗さん（１Ｇ）

「次も優勝できるように頑張ります」

男子バスケットボールでＭＶＰに選ばれたのは田村熙太朗さん（１Ｇ）。田村さんは優勝した感想を「３年生などの強いチームと戦うこともあったけど、１回も負けることなく勝ち上がることができてよかったです」と語る。１Ｇでは事前に作戦を立てて、試合に臨んだという。特に、フィジカルが強い相手をどうやったら止めることができるのかということを考えたそうだ。田村さんが一番印象に残っている試合は３Ｅと戦った準決勝だそうだ。第１ピリオドでは負けてしまっており、焦る気持ちがあったというが、その後は自分たちのペースに持ち込むことができ、勝つことができたのでとてもうれしかったと試合を振り返る。田村さんは一緒に戦ってきたチームの仲間に向けて「苦しいときは声を出してくれて、点が決まった時には一緒に喜んでくれて、とても良かったです」と感謝を述べる。次の秋季大会に向けて「声を出したり、作戦を考えたりして、次の球大でも優勝できるように頑張りたいです」と意気込みを語ってくれた。　(紫)

女子バスケ　武藤清奏さん（３Ｅ）

「みんなと一緒だったから優勝できました」

女子バスケットボールＭＶＰの武藤清奏（３Ｅ）さんに話を伺った。優勝が決まった時は信じられないという気持ちもありつつ、みんなと一緒だったから優勝できたと思ったそうだ。二回戦目では３Ｅの全ての種目が勝ち進んでいたためにプレッシャーを感じていたという。その状況の中、メンバー全員が点を入れることができたことが特に印象に残っているそうだ。試合中に意識したことを聞くと、体力のある元気なうちになるべくシュートをしようとしたことだと述べた。

決勝戦で３Ｉと対戦することになった３Ｅ。勝因として、３Ｉは速攻が強いという事前情報をもとに、ディフェンスの戻りをなるべく速くしたことを挙げた。事前に練習はとくにしなかったそうだが、見事なチームプレイを観客に見せた。メンバーに向けて、「凄く楽しかった。秋もよろしくね」と、全体に向けて「応援ありがとうございました」とメッセージを残した。最後に、次大会に向けて「みんなで楽しめたらいいなと思います！」と意気込みを見せた。　(英)

男子バレー　亀山樟さん（３Ｆ）

常に笑顔でいることを意識しました

男子バレーボールのＭＶＰに輝いた亀山樟さん（３Ｆ）は、優勝した感想を「みんなでたくさん練習して掴んだものなので、とても嬉しいです」と語る。亀山さんは試合中に雰囲気をよくすることを頑張っていたそうで「常に笑って、負けていても笑って、チーム全体で常に勝っているような感じを意識してプレーしました」と話した。試合に臨むにあたって作戦があったのか聞くと「作戦というよりは、試合中のバレー部の子の細かい指示を信じて動いていました」という。

印象に残った試合として３Ｄとの対戦をあげ「休み時間に一緒に楽しく練習したクラスなので、知り合いも多く、強かったのでよく覚えています」と話してくれた。練習ではバレーボールを楽しむことを大切にしていたそうだ。一緒に戦ったチームメイトや応援してくれたクラスメイトへ「お前たち最高だぜ」とメッセージを送り、秋季大会に向けて「秋はさらに練習して、また圧倒的な力を見せつけて絶対優勝します！」と意気込んだ。　(白)

女子バレー　関根優希さん（３Ｉ）

目標にしていた MVP 獲得の喜びを語る

女子バレーボールのＭＶＰに輝いたのは関根優希さん（3I）。ＭＶＰを獲得したことについて「前からずっと目標にしていたので、取ることができて率直にうれしいです」と笑顔を見せた。チームが良い雰囲気でプレーできるよう、声掛けを積極的に行ったという関根さん。関根さんは今回の大会を通じて、勝つためには雰囲気が大切だと分かったそうで、「勝ち進むたびに声掛けの感じを掴むことができました」と振り返る。

関根さんは印象に残った場面として２Ａとの決勝での勝利を決める自身のコート際へのショットを挙げ、「一瞬アウトかなと思ったのですが、ギリギリコート内に落ちてくれて本当に良かったです」と笑顔で語ってくれた。関根さんは「みんなが支えてくれたおかげで掴み取った優勝だと思います」と今回の大会を振り返り、秋季大会に向けては「頑張って、秋も優勝します！」と力強く意気込んだ。　(蘭)

2024年　春季大会

	男子 サッカー	男子 バレー	男子 バスケ	女子 ドッジ	女子 バレー	女子 バスケ	得点
1A	○○○×× −	×× −		× × −	○× −		12
1B	○× −	○○× −		×× −		○×△× −	14
1C	×× −	×× −		×△× −	×△△△× −		8
1D	○× −	×× −		○× −	×△△× −		10
1E	×× −	×× −		○× −	×△× −		5
1F	×△× −	×△△× −		○× −		××× −	9
1G	○× −		○○○◎★ 1位	×× −	○× −		24
1H	×× −	×△△△× −		×× −	×× −		6
1I	×× −	○× −		×△× −	×× −		5
1J	×△△× −	○○◎× 2位		×× −	×△× −		16
1K	×× −	×△× −		○× −	○○× −		11
1L	×× −		○×○◎× 2位		×△× −	×× −	12
1M	○× −		××△△× −	×△△△△▲3位	×× −		17

	男子 サッカー	男子 バレー	男子 バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	得点
2A	×△△△× −	×△× −		○○○××−	○○○◎× 2位		30
2B	×× −		××× −	×△× −	○× −		5
2C	○× −	×× −			×× −	×△△△× −	9
2D	×× −	○× −		○× −	○× −		9
2E	○○○×■×		○○× −	×× −		○× −	18
2F	○×△× −	×△× −		○× −		○○×× −	16
2G	○○○◎★ 1位	×△△× −		○○× −	○× −		31
2H	○○○○◎×2位	○× −		×△△△× −	○○○×× −		34
2I	×△× −	○○○×■▲3位			○× −	○○×■▲ 3位	24
2J	×× −		○×× −	×△△× −		×× −	7
2K	○○× −		○×○×× −	○○× −	○○× −		24
2L	×△△△△× −			×× −	×× −	○× − ##	11

	男子 サッカー	男子 バレー	男子 バスケ	女子 ドッジ	女子 バレー	女子 バスケ	得点
3A	×× −			○○○◎×2位	○○× −	×△× −	21
3B	○○× −			×△△× −	×× −	○× −	13
3C	○○× −	○× −	××△× −	×△× −			13
3D	×× −	○○× −	○×× −		○○× −		15
3E	○○× −		○○○×■▲3位	○○○◎★1位		○○◎★ 1位	50
3F	○× −	○○○◎★ 1位			○×△△× −	×× −	28
3G	○○× −	×× −			○○×■▲ 3位	×△△× −	18
3H	×△△× −	○○×× −		○○× −	×× −		16
3I	×△△△△▲3位		×××		○○○◎★ 1位	○○◎× 2位	38
3J	○○× −	○× −		○○○×■× −	×△× −		20
3K	○× −	○× −		○○× −	×△△△△× −		20
3L	×△△× −		○○×	×× −	×× −		10

・本戦勝利は3点「○」、敗者復活ブロック勝利は2点「△」

・ABブロック決勝の勝利は4点「◎」、優勝は5点「☆」

・3位決定戦の勝利は2点「▲」、準3位決定戦は0点「■」